

# 新型コロナウイルス感染症への対応 ～第3波検証（概要）～

（資料1 概要版）

- 1 分析の期間：11月15日～3月7日（113日間）
- 2 感染の端緒と特徴：県外との往来・接触（年末年始の帰省）、家庭内感染、累次感染、クラスターの多発（22件）
- 3 検査体制、医療提供体制：検査可能件数の大幅増、綱渡りの入院調整
- 4 沈静化の経緯：きめ細かな行動要請、迅速な県独自の緊急事態宣言の発令、県民の協力、医療、介護、感染症対策、その他の関係従事者の懸命な尽力と行政との連携

- 感染者数：1,576名（総数1,949名）
- 最大対10万人感染者数：42.4名
- 死者数：21名（致死率：1.3%）
- 最大重症者数：10名
- 最大入院者数：102名
- 最大宿泊・施設療養者数：118名
- 最大自宅療養者数：258名

以下の①から⑧までの視点について、取組と課題の分析・評価を行うとともに、今後の方向性を明示

## 検証①【第3波感染分析】

- （取組）患者等の基礎情報の整理、感染機会等の分析
- （今後）入院者や宿泊施設等療養者の分析  
気をつける場面を更にわかりやすく周知（感染実例）

## 検証⑤【市町村との連携】

- （取組）ホットラインやWEB会議による情報共有、市町村保健師の県保健所業務応援
- （今後）ホットラインやWEB会議の継続、ワクチン接種の連携

## 検証②【検査体制】

- （取組）インフル流行期の体制整備（診療・検査医療機関の指定379機関）等、感染拡大地域における幅広い検査
- （課題）行政検査の検体採取に係る人員体制の確保
- （今後）接待を伴う飲食店や高齢者施設等における早期探知検査、本庁職員を含めた検体採取体制の整備

## 検証⑥【県民への普及啓発】

- （取組）知事会見等による情報発信、来県者・帰県者への注意喚起、差別、誹謗中傷への対応
- （課題）「みやざきモデル」の更なる浸透、情報が「届きにくい」層への情報発信
- （今後）様々な媒体での情報発信、人の移動の多い時期における帰省や旅行への注意喚起

## 検証③【医療提供体制】

- （取組）調整本部による入院調整、病床（241→274床）及び宿泊療養施設（200→250室）の確保・運営、自宅療養対応、疑い救急患者受入体制
- （課題）宿泊療養施設の看護師確保、精神障がい者や認知症高齢者等の受入れ、透析患者の病床不足
- （今後）病床の更なる確保及び病床の受入能力向上のための医療従事者確保、自宅療養者フォロー強化、医療機関等との連携

## 検証⑦【高齢者等施設対策、クラスター対策】

- （取組）日頃の対策、陽性者確認後の初動対応、クラスター対応
- （課題）発生原因等の分かりやすい周知、人員不足への対応、
- （今後）施設職員研修、高齢者施設等における早期探知検査（再掲）、応援職員派遣スキームの改善

## 検証④【飲食店等対策】

- （取組）ガイドライン遵守対策、時短要請及び協力金、飲食関連事業者等への支援
- （課題）時短要請及び協力金に対する様々な意見
- （今後）巡回での助言・啓発の強化、時短要請や協力金のあり方検討

## 検証⑧【警報発令、県民への行動要請等】

- （取組）感染区分（感染警戒区域：オレンジ）の新設、県独自の緊急事態宣言の発令、外出自粛及び時短要請、県外への往来自粛、高齢者施設等従事者等に対する行動要請
- （課題）再度の感染拡大を防ぐための適正な警報発令等
- （今後）行動要請の一步早期化、3週間の期間設定